

平成29年度 海外姉妹都市交流派遣事業 報告書

派遣期間:2017/8/18~2017/8/27



高砂市・高砂市国際交流協会

Takasago City・Takasago International Association

目次

- ごあいさつ 1
- 姉妹都市ラトローブ市紹について 2
- 親善大使紹介 3
- 派遣日程 4
- 委嘱式・事前研修・壮行会 5
- 旅の記録 6~9
- 帰国報告会 10
- 感想文 11~19
- 親善大使アンケート結果 20~21
- お世話になったホストファミリー 22
- 思い出のページ 23
- 団長からのメッセージ 24
- 事務局後記 25

ごあいさつ

高砂市では、オーストラリアの姉妹都市ラトロープ市とあらゆる方面での交流を続けてきております。協会では市の委託事業、協会独自の事業を実施し、いずれもが価値のある有意義な成果をおさめ、お互いの理解と親睦にも大いに貢献してきたものと思われまます。

今年度は、市の委託事業として美術による学生の派遣を実施いたしました。選考の難関をパスして8名が参加されました。

本年はホームステイをしながらカレッジ（中高一貫校）での美術の授業にも出席して研修を深めていただきました。参加された方も中学生から高校生までと幅も広く、又姉妹都市への訪問ということで安心して参加していただけたものと思います。そしてホームステイや交流を通じて見識と学力を広げていただけたと同時に、国際社会への関心も大いに深まったのではないのでしょうか。今後進学され、また社会に出られても、是非この経験を生かしていただき大いに活躍されることを期待しております。

高砂市とラトロープ市の積極的なバックアップにもあらためてお礼を申し上げます、事業が無事終了しましたことをご報告申し上げます。

高砂市国際交流協会
会長 西中亮二



姉妹都市ラトロープ市について

Q1：高砂市の姉妹都市ラトロープ市はどこにあるの？

オーストラリアの南東部、ビクトリア州にあり、メルボルンから東へ約120km、車で約2時間のところにあるよ。1994年にモーウェル市、モウイ市、トララルゴン市と周辺村が合併してラトロープ市になったんだ。

Q2：どれくらいの広さかな？

約1422km²で、高砂市の約42倍もあるそうだよ。

Q3：人口はどれくらい？

広いところだけど、人口は約74,000人なんだって。（高砂市は約92,000人）（※2017年8月現在）

Q4：主な産業は？

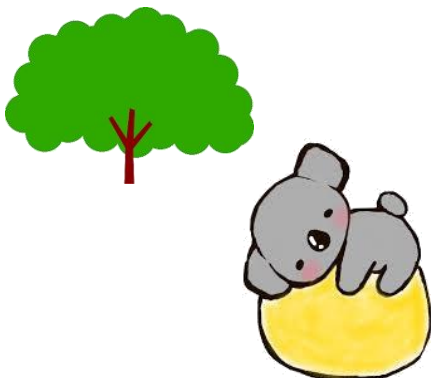
工業、林業、酪農などさまざま。特に有名なのが電力発電で、ビクトリア州の電力の約85%を供給しているそうだよ。

Q5：いつから交流しているの？

きっかけは1991年に(株)神戸製鋼所高砂製作所が褐炭を使った実験用プラントをモーウェル市（当時）に建設したんだって。そこから交流が始まり、2000年10月に姉妹都市締結をしたんだ。もうプラントはなくなったけれど、毎年ずっとお互いの行き来をして交流を深めているよ。

Q6：どんな交流をしているの？

毎年交互に受け入れと派遣をやってるよ。滞在中はホームステイでそれぞれの生活を体験するんだ。過去にはユースバンドやアーティスト、柔道、水泳チーム、マラソンチームの交流があったよ。



親善大使紹介

三間	麻椰	兵庫県立姫路西高等学校	2年
古賀	千織	高砂市立高砂中学校	2年
和田	悠詩	灘中学校	2年
森田	小夏	兵庫県立高砂南高等学校	2年
山口	翠月	神戸山手女子中学校	3年
高田	楓子	高砂市立宝殿中学校	1年
田中	萌絵	滝川第二中学校	2年
宮本	詩愛奈	高砂市立松陽中学校	1年

※学年は2017年8月時点



派遣日程

日程：平成29年8月18日（金）～8月27日（日）

日	月日（曜）	都市名等	時間	交通	行程	宿泊地
1	8月18日 （金）	高砂市役所発 関西空港着 関西空港発 シンガポール シンガポール	6:30 9:00 10:55 16:40 21:15	貸切バス SQ619便 ↓ SQ227 ↓	シンガポール航空 乗り継ぎ	機内泊
2	8月19日 （土）	メルボルン空港 ラトローブ	6:40 12:00	ラトローブ手配車	到着、移動 ラトローブ市役所着、ウェルカムパーティ 謡曲高砂およびプレゼンテーション披露 ホストファミリーと帰宅	ホームステイ/ホテル
3	8月20日 （日）	ラトローブ			ホストファミリーと過ごす	ホームステイ/ホテル
4	8月21日 （月）	ラトローブ	8:20		ロアナカレッジ（中・高校）訪問 歓迎式で謡曲高砂とプレゼンテーションを披露 美術系の授業に参加	ホームステイ/ホテル
5	8月22日 （火）	ラトローブ	9:00		フェデレーション大学訪問 ワークショップに参加	ホームステイ/ホテル
6	8月23日 （水）	ラトローブ	9:00 18:30		市役所および市内アート関連施設訪問、見学 （市営ギャラリー、カウワートアートスペース、 ARCイナナー※講師：ニコル・プリンドレー氏） 送別会	ホームステイ/ホテル
7	8月24日 （木）	ラトローブ フィリップ島 メルボルン	9:00 9:30 17:30 22:45	ラトローブ手配車 ↓ ↓ ↓	市役所集合 フィリップアイランドへ コアラ保護区、チャーチルで昼食、動物観察など ペンギンパレード見学（センターで夕食） ホテル着	アイビススタイルズ キングスゲートホテル
8	8月25日 （金）			専用車	終日メルボルン市内見学（国立美術館、国立映像 美術館、イアン・ポッターセンターなど）	アイビススタイルズ キングスゲートホテル
9	8月26日 （土）	メルボルン メルボルン空港	9:00 18:25	専用車 ↓ SQ208	メルボルン市内観光（聖パトリック大聖堂、ロイ ヤルエキシビジョンセンター、フィッツロイ庭園、 ピクトリアマーケットなど） シンガポール航空	
10	8月27日 （日）	シンガポール シンガポール 関西空港 高砂市役所着	0:15 1:25 9:05 12:00	↓ SQ618 ↓	乗り継ぎ シンガポール航空 専用車で高砂へ	機内泊

委嘱式

2017/7/4（火）高砂市役所南庁舎5階大会議室にて、委嘱式を行いました。来賓として高砂市議会議長、高砂市教育長、高砂中学校、松陽中学校、宝殿中学校各校長にご出席いただき、市長より親善大使に委嘱状を授与しました。式終了後、保護者説明会が開催されました。



事前研修

親善大使は高砂市の代表としてラトローブ市を訪問することの認識を深めるために4回の事前研修を行いました。現地で披露する「謡曲高砂」の練習、2人1組で高砂特有の文化を調べ、パワーポイントを使って英語でプレゼンテーションする準備、英会話はラトローブ市からのALTメリッサ・ラーキンス先生に指導していただきました。下記以外の日程でもわからないことがあれば随時協会に来て質問し、熱心に準備する親善大使もいました。

第1回	7月13日	オリエンテーション、英会話、謡曲高砂練習、プレゼン準備
第2回	7月25日	謡曲高砂練習、英会話、プレゼン準備
第3回	8月3日	同上
第4回	8月8日	壮行会での謡曲高砂発表、プレゼン発表、アドバイスをもらう

※プレゼン内容は、①竜山石と石の宝殿について②あなごとにくてんについて③高砂神社秋祭りについて④松右衛門帆布について、各自取材し、写真を撮り、英語の原稿を作成しました。

壮行会

2017/8/8（火）高砂市役所南庁舎5階大会議室にて、壮行会を行いました。来賓として高砂市議会議長、高砂市教育長、国際ソロプチミスト加古川会長、滝川第二中学校教諭にご出席いただき、参加者に激励のお言葉をいただきました。国際ソロプチミスト加古川様よりお揃いのジャケットを贈呈いただき、また親善大使は派遣事業への意気込みや目標を述べました。そして練習してきた謡曲高砂およびプレゼンテーションを披露しました。



旅の記録 1

8/18 (金) DAY1

朝6時半に高砂市役所から関空へ。まずはシンガポールへ出発！シンガポール空港で5時間程乗継の時間があり、お茶したり、広い空港内を散策したり…。いよいよオーストラリアに向かいます!(^^)!



皆に見送られて「行ってまいります!!」



シンガポール空港にて

8/19 (土) DAY2

ラトロブ市職員がメルボルン空港まで迎えにきて、ラトロブ市まで約2時間のドライブ。おしゃれなカフェでランチをいただき、ホストファミリーの待つウェルカムパーティへ。謡曲高砂斉唱、高砂についての英語のプレゼンテーションの後、ホストファミリーとの対面式がありました。



自分の食べたいものを英語で注文しました。



CEO ガラリー氏 (右)
担当市職員ジエ氏 (左)



高砂市長の手紙を代読
する都倉団長



市長の
ケリーさん
と一緒に

8/20 (日) DAY3

ホストファミリーと一緒に過ごしました。
動物園、ブッシュウォークなどそれぞれ連れて行ってもらったようです。



旅の記録2

8/21 (月) DAY4

ロアナカレッジという公立の中高一貫校へ行きました。1時間目の7年&8年生学年集会の時間に、謡曲高砂とウェルカムパーティでも披露した高砂に関するプレゼンテーションを大勢の生徒の前で発表しました。2時間目からはそれぞれ教室に分かれて、主に美術に関する授業を現地の生徒たちと一緒に受けました。



8/22 (火) DAY5

色々な学部をもつ総合大学、フェデレーション大学を訪問しました。最初にキャンパスツアーをしてから芸術学部を訪問しました。学部長のお話を聞いた後、写真を現像する体験、午後からは本格的なデッサンを基礎から学びました。



旅の記録3

8/23 (水) DAY6

ラトロブ市役所を見学して、すぐ近くにある市立ギャラリーを訪問しました。次にコウワーアートスペース、アークイナーというギャラリーを訪れ、主にローカルアーティストの作品に触れました。夜はフェアウェルパーティが行われ、ラトロブ市長、高砂市国際交流協会副会長の挨拶と記念品交換の後、親善大使たちはホストファミリーと一緒に最後の晩餐を楽しみました。またホストファミリーのスピーチ、親善大使の感謝のスピーチでは、感動して涙を流す人もいました。そして今後もラトロブと高砂の交流を深め、末永くお付き合いしていくことを約束しました。



8/24 (木) DAY7

ホストファミリーとお別れして、一路フィリップアイランドへ。まずコアラ保護地区に行きました。その後チャーチルアイランドの観光牧場へ行き、牛の乳しぼり体験、羊の毛刈り見学等を行いました。続いてノビーセンターと呼ばれる、島の先端の入り組んだ岩礁を見下ろす遊歩道を散歩しました。そして最後はペンギンパレード。オーストラリアの多様な生物、自然を堪能しました。



旅の記録4

8/25 (金) DAY8

メルボルンのアートに触れる一日でした。ビクトリア国立美術館で特別展示中の北斎展を鑑賞、フェデレーションスクエアにあるACMI（オーストラリア国立映像美術館）、続いてすぐ隣にあるイアンポッターセンターという、オーストラリア出身の芸術家作品を数多く展示している美術館に行きました。その後自由行動で大都会メルボルンの雰囲気を楽しみました。また以前高砂市でALTをしていたエリザベスが会いに来てくれて、少しの時間でしたがおしゃべりすることが出来ました。

夕食後、まだまだ元気な親善大使4名はガイドさんと一緒に夜のメルボルンを散策しました。



元 ALT のエリザベス先生♡
おしゃれなカフェ
ケーキがおいそ！



8/26 (土) DAY9

最終日はメルボルン市内観光へ出発！ ترامに乗って中心部を散策。歴史のある古いアーケード街、壁一面の落書きのようなアート、その後バスでセントパトリック大聖堂、ロイヤルエキシビションセンター、フィッツロイ庭園を見学しました。昼食後はビクトリアマーケットで最後のショッピングタイム。18:25 発の飛行機で、シンガポール経由帰国の途につきました。



8/27 (日) DAY10

飛行機の遅れもなく、朝9時過ぎに関空着、専用バスで高砂に午後1時に到着しました。南半球の冬から残暑厳しい夏に逆戻り。最後まで大きなケガもなく、全員笑顔で締めくくることができました。ありがとうございました！！



帰国報告会

9月5日（火）高砂市役所南庁舎5階大会議室にて、帰国報告会を行いました。来賓として高砂市議会議長、高砂市教育長、松陽中学校・宝殿中学校校長にご出席いただき、この経験を大切に活かすよう、お言葉をいただきました。その後、派遣中のスライド鑑賞をしました。最後に、今回の派遣に対する参加者の感想を述べていただきました。皆さんいろいろな経験をし、大きく成長して帰ってきたと見受けられました。

報告会后、親善大使は連絡先の交換をし、再会を約束しました。



平成29年度 海外姉妹都市交流派遣事業 感想文

氏名：和田 悠詩



初めは男子1人という事でとても緊張していたけど、行ってみるとみんなと仲良くなり、とても楽しく過ごすことができました。

ホームステイは初めての経験で、ステイ先に決まった家族は、お子さん達は結婚していて家族は夫婦二人と聞いていたので、初めは同じ年くらいの子どもが居なくてホストファミリーの人と共通の話題があるかな？と心配したけれど、HelenもCliveもとても良い人たちで僕を本当の家族のように温かく迎えてくれました。

たった数日だったけれど、いっぱい話して仲良くなり、結婚して家を出ている娘さんたちやお孫さんたちや親せきの方たちも僕に会いに来てくれました。みんなと一緒にごはんを食べて、一緒に遊んで、数日間あっという間でした。本当のファミリーみたいに過ごせました。帰って一緒に撮った写真を母に見せたら、「HelenとCliveが悠詩のほんまのお母さんとお父さんに見えるわ～」と言われたほどです。

ホームステイ先では色々な経験をさせてもらいました。フットボールの試合の観戦に連れて行ってくれたし、ピクニックにも連れて行ってくれました。初めてフットボールを観戦しましたが、意外とおもしろかったです。すごく寒かったのに選手の人達は半袖でした。ピクニックは車で40分くらいかけて「Walhalla」という所へ連れていってくれました。ゴールドラッシュの時に金がいっ

ばい採れた所だったそうです。自然がいっぱいで、とてもきれいな場所でした。Helen が作ってくれたお弁当も美味しかったです。Helen は詩愛奈さんのホストファミリーと仲良しだったので、詩愛奈さんのホストファミリーの家で飼っているアルパカも見せてもらえたり、一緒にボーリングにも連れて行ってもらいました。日本のボーリングと全く同じだったけど、オーストラリアのボーリングは最高に楽しかったです！また僕が学校で陸上部に入っていることを事前に伝えていたので、トレーニングウェアを持ってくるように言われていました。すると詩愛奈さんのホストファザーがランニングクラブのコーチだったので、僕もそのランニングクラブの練習に参加させてもらいました。オーストラリアで陸上という貴重な経験ができて良かったです。しかもとても楽しかったです。スポーツは世界共通なんだなと思いました。

今まで Helen と Clive はホストファミリーになれたことがなくて、僕が初めてだったそうです。でも「ホストファミリーになれた事は、私たちにとって最高の経験だった！」と言ってくれて、本当に嬉しかったです。二人と別れる時は寂しかったけど、メールもやりとりしているし、第二のお父さんとお母さんができた気分です。

観光も楽しかったです。特にフィリップ島のペンギンパレードは感動しました。野生のペンギンを見たのは初めてで、思っていたより小さくて、可愛かった～。メルボルンはきれいな街で、トラムが街中を走っているので車が少なくエコだなあと思いました。日本もそうしたらいいのになあ。ごはんも美味しかったですし、英語のプレゼンテーションも緊張したけど良い経験になりました。1枚の感想文では書ききれないぐらいいっぱい思い出ができて、本当に、本当に、本当に楽しかったです！この機会を与えて下さった高砂市、高砂市国際交流協会の皆様、ありがとうございました！



トララルゴンの郵便局



パトカー



ポスト



平成29年度 海外姉妹都市交流派遣事業 感想文

氏名： 古賀 千織

私はこの国際交流の派遣で、たくさんの「初めて」を経験できました。あっという間に過ぎていった10日間でした。

私は今回初めての海外、初めてのホームステイでした。行く前はとても心配で不安でした。でもホストファミリーに会うと、とてもフレンドリーで優しかったです。優しかったのはホストファミリーだけでなく、ホストファミリーのお父さんやお母さんも明るくて5日間があっという間に終わってしまいました。またホームステイしたいです。

オーストラリアは日本とたくさんの違いがありました。

一つは食べ物です。私はフィッシュアンドチップスを食べました。魚とチップのポテトと、更にフライドポテトと練り物を揚げたものがありました。魚はお皿よりも長くて、大きいポテトプラスフライドポテトでした。とても量が多く、ホストファミリーの食べた量の半分くらいでお腹がいっぱいになりました。それ以外も1つ1つの量が多かったです。

二つ目は町がアートであふれていました。路地の壁に絵が描いてありました。また建物が昔のままのデザインでした。市役所もオシャレで、キッチンまであって、日本にはないと思いました。メルボルンの建物も日本とは違う美しさがありました。あちこちにアートがあって、見つけるのがたのしかったです。

最後にこの交流で自信がたくさんついて、新しい見方ができました。まだ書ききれないくらい思い出があります。こんな機会がまたあれば、是非参加したいです。この交流をして下さり、ありがとうございました。



平成29年度 海外姉妹都市交流派遣事業 感想文

氏名： 森田 小夏

このオーストラリア派遣は私にとって、大事な、そして特別な夢でした。私にとって英語とは、私自身を見つけられる望遠鏡のようなものでした。

私は自分の欠点を他人に知られるのを恐れ、言葉で自分を隠しました。中学に入って英語の勉強が始まり、私はどんどん夢中になっていきました。語彙力のない私は、英語で自分を表現するととてもストレートなものになり、“素”になれた気がしました。そんな英語という望遠鏡を使って素の自分を伝えた時、周りは受け入れてくれるのか試したいという思いを叶えてくれるのがこの海外姉妹都市交流派遣事業でした。

ラトロブ滞在中、私は英語で自分をストレートに表現しました。そして出会ったのが人の優しさでした。私が飾らず素でいる時、相手もまた真っすぐに私を受け入れてくれました。私というものは、良い所も悪い所も含め、全てが私なんだ、と気づいたのです。なんだか分かりにくい話ですがそう気づいた時、私は初めて私を受け入れられました。

ストレートに話すだけでは会話が弾まず、自分の英語における弱点に落ち込むこともありました。英語とともに過ごしていると実感できることが心地良く、1つ1つのこと、小さな日常のことからさえも刺激を受ける10日間でした。

さらにまた、日本の良さにも気づくことができ、次に外国人から日本について聞かれた時により深く日本のことを伝えられるようになったと思います。次にオーストラリア、海外へ行く時には、より自分を受け入れることで改善された、そして今回気づいた弱点を克服した英語と、日本についてのより深い知識を身につけていたいと思います。

最後に私の夢を叶えるため協力していただいた全ての方々、本当にありがとうございました。



氏名： 山口 翠月

私は今回の派遣には、英語をもっとたくさん学びたい、オーストラリアの文化について知りたいといった気持ちで参加しました。まずオーストラリア・ラトロブ市に着き、ホストファミリーと初対面した時、私はうれしさとともにとても緊張していました。でもホストファミリーの皆さんはとても温かく迎えてくださり、私は短い間でしたが充実した日々を過ごせました。ですが最初、私はすごく英語を勉強してきたのに、「Yeah」か「No」くらいしか言うことができませんでした。するとホストファミリーの一番下の子に「ミズキは返事しかしないね。もっと私たちはあなたと話したいのに・・・」と言われてしまいました。相手の英語は理解できるのに、自分が何と答えたらいいのかわからなかったのです。その日の夜、ホストファミリーの様子を思い出していた時に、皆本音を言っていたことに気づきました。「好き」だったら「好き」。「キライ」だったら「キライ」と。そこで次の日から自分の本音を言うようにしてみました。すると不思議に本音を言うと次から次へと伝えたいことが出てきて、片言だったと思うけど会話を成立させることができ、最後別れる時泣きそうになりました・・・。今でもホストファミリーとは連絡をほぼ毎日とっています。

今回の研修の目的はアートについてでした。私はアボリジニアートをこの目で見たのは初めてでした。アボリジニの絵は他の絵とは違い、点で描かれています。また彼らは文字を持たなかったの、絵で何かを伝えたりしたそうです。私はオーストラリアの自然は広大で空や草原が広がっているのに、なぜ点で描かれるのだろうと思いました。アボリジニの絵画の特徴は物をはっきり描くのではなく、ねじって作者本人の思い等も入れられるそうです。それについても、もっと調べてみたいですね。最後にたくさんの人にお世話になりました。ありがとうございました。



平成29年度 海外姉妹都市交流派遣事業 感想文

氏名： 高田 楓子

私は今回の親善大使として行くオーストラリアが、人生初の海外旅行でした。ホームステイ、英語でプレゼンをするなど、まだ中1で英語があまりできない私は行く前から不安で不安でたまりませんでした。でもいざ出発してオーストラリアが近づくにつれて、不安と共に、これからあるたくさん体験へのワクワクも大きくなっていきました。

私がオーストラリアで印象に残っていることが3つあります。

1つ目はホームステイです。ホストファミリーの Bantock 家はホストファザーの Liam, マザーの Melissa、シスターで双子の Eva と Zoe の4人でした。特に Eva と Zoe は私より年下で、兄しかいない私にとって妹みたいでかわいかったです。ファザーが消防士で、休日は消防署に連れて行ってもらいました。3日目の夕食で、お好み焼きとみそ汁を振舞うと、すごく好評でとてもうれしかったです。Eva は箸に挑戦しましたが、難しくてギブアップしました。

2つ目は学校の様子です。学校は日本とあまり変わらず1人1人がしっかり席について授業というのが私の予想でしたが、日本とは全然ちがいました。授業が始まると床に寝っ転がる人や、ケータイをいじる人、立ったり、おしゃべりしたり・・・とにかく自由でした。でもみんなフレンドリーで、休み時間はお話したり遊んだり、手を振ってくれる人もいました。遊具もあったり、ベンチもオシャレでした。

3つ目は美術です。美術交流ということで、ラトロープ市営のギャラリーで、こんなのがアート？と思うようなものを見たり、美術の授業に参加したり、デッサンを教えてもらったり、初めてパステルを使ったりして、とても楽しかったです。

今回の親善大使のみんなとも仲良くなれました。みんなとはこれからも連絡を取り合って仲良くしたいです。今回オーストラリアに行って、オーストラリアが大・大・大好き！になったし、もっと英語をがんばろうと思うきっかけになりました。いつか、もう1度行ってホストファミリーと会いたいです。いつかホストファミリーがこちらへ来てくれたら、私も日本のことや日本料理をたくさん教えてあげたいと思います。

最後になったけれど、私にとってもいい思い出をくれた皆さん、ありがとうございました！



平成29年度 海外姉妹都市交流派遣事業 感想文

氏名： 田中 萌絵

私は今回の海外姉妹都市交流で、たくさんの大切な思い出をつくることができました。

ウェルカムパーティの時、緊張している私にホストファミリーは優しく声をかけてくれました。それから5日間、いっしょに暮した時間はとてもあっという間でした。ホストマザーは私にクラフトを教えてくれました。そしてホストファザーは本を読んでくれたり、オーストラリアについて教えてくれたりしました。ホストファミリーと過ごした時間は忘れられません。

私が一番印象に残ったことは、オーストラリアの学校の様子です。想像していた学校とは全然違って、髪を染めていたり、ピアスをしていたり、とても自由な感じでした。日本の学校もこんな感じだったらいいなあと思いました。授業でも日本の学校ではあまり見ない陶芸や、写真を現像するような授業があってとても楽しかったです。そして休み時間には、生徒のみんなと話をしたり、一緒に写真を撮ったりしました。生徒のみんなと過ごした時間も大切な思い出です。

私は親善大使として参加して本当によかったと思います。またこういう機会があれば参加したいと思います。



平成29年度 海外姉妹都市交流派遣事業 感想文

氏名： 宮本 詩愛奈

私は、このオーストラリア研修でたくさんのご経験することができました。まず驚いたことは、とてもきれいな町だということです。どのお店もオシャレで海外だなあと感じる事ができました。

また私がお世話になったホストファミリーのお家は少し郊外にあり、空がとてもきれいでした。夜になると見たことがないような星空が広がっていました。自宅でポニーやアルパカがいたりして、絶対に日本では考えられないことでした。そのベンジャミンさんはとてもおもしろくていい方でした。

フリーデイには動物園に連れていってもらったり、ベンジャミンさんの妹の娘さんの誕生日パーティーにも呼ばれたり、とても楽しい日々を過ごしました。

またオーストラリアの人たちは、とても親切な方が多く、そしてフレンドリーでした。そのおかげで、怖気づくことなく英語を話すことができ、間違っていたもしっかり話そうと思えました。だからこそ自分の勉強不足を痛感し、もっとたくさんの人たちと英語を通じてつながっていきたくて思いました。

まずは今年の12月にお世話になったベンジャミンさんが高砂マラソンを走りに来られるので、それまでに少しでも英語が上達しているように頑張りたいと思います。

今回の経験は私のかけがいのない財産になりました。この経験を活かし、これからもっと頑張っていきたいと思えます。

最後になりましたが、今回のオーストラリア研修に行かせていただきましてありがとうございました。



親善大使アンケート結果

1. 今回のオーストラリアの訪問で、一番印象に残っていることはなんですか？

- ホームステイ
- ホストファミリーと訪れた国立公園で、めずらしい野生の鳥が見れたこと
- ホストマザーとのショッピング
- 学校の規則が緩くて、髪を染めている人もいたこと
- きれいな自然、建物 ・ランニングをしたこと
- とても静かで空気がきれい。星がとてもきれい

2. 研修について(計4回)

- 回数について：多い…2人 ちょうどよい…5人 少ない…1人
- 内容について：難しかった…0人 ちょうどよい…6人 簡単だった…2人
- 他にもどんな内容の研修がいいですか？
 - ・オーストラリアン英語
 - ・生物について調べてみたかった
 - ・自分たちで昼食を注文
 - ・美術研修だったので、オーストラリアのアーティストの名前などを事前に知りたかった

3. ホームステイについて

- 部屋について： ①個室…8人 ②共有…0人
- ホストファミリーとどのように過ごしましたか？
 - ・おしゃべり、買い物、お手伝い、テレビ、映画鑑賞など
 - ・子どもと遊ぶ、一緒にクラフト、ボウリングに行くなど
- ホストファミリーとは積極的に：話せた…3人 まあまあ話せた…5人 話せなかった…0人
- ホームステイ中、何か困ったことはありましたか？
 - ・言葉が伝わらなかった、早く話されると聞き取れなかった
 - ・シャワー、お風呂が寒かった！
 - ・フェイスブック、インスタグラムのIDを教えてと言われた（学校にて）
- ホストファミリーのお土産に、何を持っていきましたか？喜ばれたものはなんですか？
 - ・日本のお菓子（おにぎりせんべい、ポッキー、抹茶味のものなど）
 - ・おもちゃ（おてだま、風鈴、折り紙と折り方の本、紙風船、寿司マグネット）
 - ・文具（寿司の付いたペン、フリクションペン、ジェットストリームボールペン、おもしろ消しゴム、筆箱、ポストカード）
 - ・フェイスパック、だるま柄タオル、今治タオル、箸、サランラップ、革さいふ
- 持って行って、役に立ったものは何ですか？
 - ・防寒具、カイロ、電子辞書、ドライヤー、保湿クリーム、スリッパ、スマホ、ハンドタオル、洗濯ネット、変圧器、変換プラグ、時間つぶしの本、映画（スマホで見る）
- 必要なかったものは何ですか？
 - ・タオル、ドライヤー、カップ

4. 高砂と比べて「ちょっと違うなあ。」と感じたのはどんなところですか？

- 町の様子
 - ・土地が広い・自然が多い・ほとんど平屋・道路が広く、制限速度がない、おしゃれ

●生活

靴のまま家に入る・お風呂はシャワーだけ・早寝早起き・スーパーのレジ袋を自分で取らなくてはいけない・毎日洗濯しない、食器も軽く洗えば OK・肉ばかり食べる・お米の調理法（おかゆをざるで洗っていた）

●その他

学校が自由・性格が陽気な人が多い・敷地が広い・ゲストルームがある・市役所オフィスが開放感があり、働きやすそう

5. オーストラリアでできたことはどんなことですか？

- ホストファミリーと仲良く、楽しく過ごせた
- 日本とオーストラリアの違いを見ることができた
- ブッシュウォーク、カンガルー、コアラをみることができた
- 珍獣ハント、オーストラリアの生き物を思いっきり触れ合う
- ビクトリア国立美術館の絵を堪能できた
- 英語で何かを話そうと頑張れた・人前でスピーチすることにチャレンジできた

6. やり残したこと

- ホストファミリーと写真をとること
- もっとたくさんの人たちと積極的に話をする
- 買い物(メルボルンのロイヤルアーケードでショッピング(行った時は店が閉まっていたため))
- Jump & Climb (トランポリン等がある遊戯施設)に行きたかった
- ホストファミリーが作ってくれたお寿司を食べそこなった

7. 親善大使として派遣される前と後とで、どんな気持ちの変化がありましたか？

- 積極的になれた
- もっといろんな人と話してみようと思えるようになった
- 英語に対して自信がもてるようになった
- 話して伝わるうれしさがわかった。もっと英語を勉強してもっと話せるようになりたい
- 自分自身と日本の良さに気づいた
- 文法無視でもなんとか通じるが、単語力不足を実感。もっと使える英語にしたい
- アートのジャンルを自分の中で増やしていきたい

8. 自由に書いてください。

- こんな良い経験をさせていただきありがとうございました。
- もっと向こうの文化にどっぷり浸かって、違いや共通点を楽しみたかったです。なんでも出来るだけ挑戦してみてできないと思う所は工夫してもう一度やってみることがとても大切だと実感しました。お互いの文化を共有するのも大事だと思いました。意外と共通点が見つかったりします。
- お好み焼きをよろこんでくれて良かった。ホストシスターがとても可愛かった。
- みんな優しくフレンドリーで接しやすかった。星がとてもきれい!!
- いろんなアートがあって、メルボルン中アートだった。
- ホストファミリーと初めて会ったときは英語を聞き取ることが少し難しかったけれど一緒に過ごすにつれてだんだんと聞き取れるようになり、会話するのが楽しくなりました。夕食の後、ホストマザーにハンドクラフトを教えてもらったことが大切な思い出です。
- 憧れの英語圏で英語だけでなく人の優しさや異文化に触れ、自分自身が進歩できたと感じます。この経験を自分だけでなく、他人のためにも生かしていきます。

お世話になったホストファミリー



Ernest ファミリー



McKenna ファミリー



Syme ファミリー



Price ファミリー



Whirby ファミリー



Bantock ファミリー



Conabere ファミリー



Bailey ファミリー

思い出のページ



ラトローブ市役所をはじめとして、街中にアボリジニアートが飾られています。

左の作品は 2010 年に高砂に来られたロナルド・エドワーズ氏のもので

す。また公式なスピーチの前には必ずオーストラリアの先住民族を敬うメッセージが読まれます。

ロワナカレッジの中1、中2生合同学年集会の様子。大きな階段教室に約300名が集まります。親善大使のプレゼンテーションを生徒の皆さんは真剣に聞いてくれて、先生方からも「大勢の前で、外国語で発表するのはすごいね！」とお褒めの言葉をいただきました。



トララルゴンにあるイタリアンレストランでのひとコマ。オーストラリアでは古い建物をリノベーションして、おしゃれなカフェやレストランが次々とオープンしています。お世話になった市職員国際交流担当のジエさん（左から2人目）、学芸員のニコルさん（右から2人目）と一緒に。



団長からのメッセージ

高砂市は、オーストラリアの姉妹都市ラトローブ市と2000年10月から交流が始まり17年が過ぎました。2017年度は8月18日～27日の10日間の日程で高砂市からラトローブ市へ親善大使8名が参加し、「芸術の交流」を目的として実施致しました。

親善大使の8名は、ラトローブ市ロアナカレッジにおいて高砂市の魅力を英語でプレゼンテーションを行い大変良い評価を頂きました。また、芸術の交流においてもラトローブ市のご支援で充実した経験をさせて頂き、大変良い結果を得ることが出来たと思っております。

親善大使の皆さんはホームステイでの経験や交流を沢山出来たことと思いますが、この経験を踏まえご活躍されることを期待しています。

最後になりますが、この事業を行うに際しましてご尽力を頂きました関係者の皆様方に感謝申し上げますと共に、今後共ご支援、ご協力をお願い申し上げます。

高砂市国際交流協会副会長 都倉 達殊





事務局後記

姉妹都市交流を始めてから 17 年、高砂市とラトローブ市は、お互いに信頼し合い、安心してプログラムを遂行できる関係を築いていると、今回同行し、確信しました。ホストファミリーの手配、到着後のサポート体制等もしっかりしていて、単なる旅行社を通した研修旅行とは全く違う、姉妹都市ならではの温かいおもてなしの心を感じることが出来た 10 日間でした。

親善大使の生徒たちも、TV やネットの世界では体験できない生の外国に触れることで色々と考えることがあったと思います。

これまで地道に積み上げてきたこの関係を更に発展させ、市民レベルの交流にまでしっかりと根付かせるため、国際交流協会の役割を果たしていきたいと強く感じました。

片岡 さわ子



平成 29 年度 海外姉妹都市交流派遣事業報告書

高砂市・高砂市国際交流協会

〒676-8501 高砂市荒井町千鳥 1-1-1

TEL : 079-443-9132 FAX : 079-442-2229